

2023年9月29日  
産業調査部

# 商工中金景況調査

## 2023年8月調査結果(定例分)



1. 目的・調査事項	<ul style="list-style-type: none"><li>●目的 中小企業の、景況感をはじめとする実態のタイムリーな把握</li><li>●調査事項<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 景況感 今月及び先行き</li><li>(2) 業況判断（売上、販売価格、仕入価格、雇用状況、生産・営業用設備、資金繰り）今月及び先行き</li><li>(3) トピックス (中小企業のウェルビーイングに関する調査&lt;仮&gt;) <b>※トピックス部分は別途、10月中～下旬公表予定</b></li></ul></li></ul>
2. 回答期間・調査頻度	<ul style="list-style-type: none"><li>●回答期間 2023年8月18日～9月4日（本件が第14回調査）</li><li>●調査頻度 四半期毎（当面）</li></ul>
3. 対象企業	商工中金の取引先中小・中堅企業
4. 企業数	有効回答数 2,513社 (アンケート依頼数 3,789社、回答率 66.3%)
5. 調査方法	インターネットによる直接回答
■ ご照会先	商工中金 産業調査部 高澤（たかさわ） TEL：080-7005-3663

# 調査回答企業の属性（業種別）

		回答企業数	構成比(%)			回答企業数	構成比(%)
製造業		1,136	45.2	非製造業		1,377	54.8
	食料品	141	5.6		建設業	77	3.1
	化学	80	3.2		卸売業	386	15.4
	鉄・非鉄	82	3.3		小売業	212	8.4
	印刷業	59	2.3		運輸業	391	15.6
	金属製品	186	7.4		飲食・宿泊	118	4.7
	はん用、生産用、業務用機械	161	6.4		情報通信業	41	1.6
	電気機器	81	3.2		その他非製造業	152	6.0
	輸送用機器	138	5.5				
	その他製造業	208	8.3				
全産業						2,513	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある（以降頁同様）

# 調査回答企業の属性（地域別）

地域		回答企業数	構成比(%)	地域	回答企業数	構成比(%)
	北海道	63	2.5	北陸	108	4.3
	東北	185	7.4	近畿	414	16.5
	関東	755	30.0	中国	200	8.0
	甲信越	161	6.4	四国	82	3.3
	東海	264	10.5	九州・沖縄	281	11.2
全産業					2,513	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある

地域区分：東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）、関東（茨城、栃木、群馬、東京、埼玉、千葉、神奈川）、甲信越（山梨、長野、新潟）、東海（静岡、愛知、三重、岐阜）、北陸（富山、石川、福井）、近畿（大阪、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山）、中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）、四国（香川、徳島、愛媛、高知）、九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）

# 1. 景況感

～景況判断指数は2020年の本調査開始以来初の  
2回連続「好転」超

<2023年8月の景況感>

# 景況判断指数は2020年の本調査開始以来初の2回連続「好転」超

今月の景況判断指数（全産業）は50.6

（前回比-1.0ポイント）

先行きの景況判断指数は52.8

（今月比+2.2ポイント）

□ 8月・「好転」18.9%、「不変」63.5%  
「悪化」17.6%

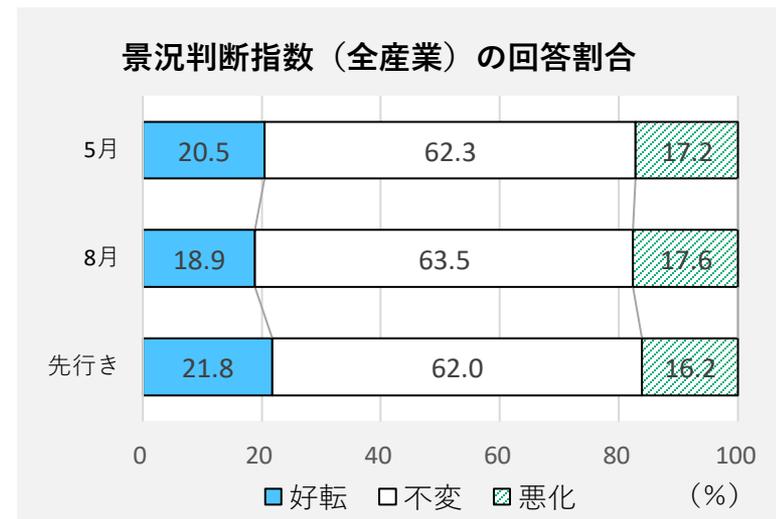
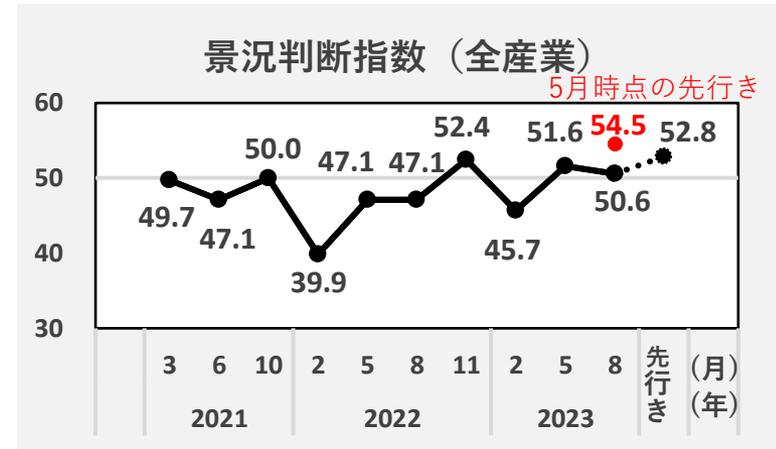
□ 先行き・「好転」21.8%、「不変」62.0%  
「悪化」16.2%

注1) 景況判断指数の算出式

景況判断指数 = ( (好転企業数 × 1 + 不変企業数 × 0.5 + 悪化企業数 × 0) ÷ 当該設問への回答企業数 ) × 100

指数が50を上回っていれば調査対象企業群の景況判断が概ね1~3か月前と比べて好転したことを表し、50を下回っていれば景況判断が概ね1~3か月前と比べて悪化したことを表す。50が中立となる。指数の範囲0.0 ≦ 景況判断指数 ≦ 100.0

注2) 景況判断は、「今月（概ね1~3か月前と比べて）」につき3つの選択肢 = 「1.好転」「2.不変」「3.悪化」から選択。「先行き（向こう3か月程度の見通し）」についても同様。



<2023年8月の景況感>

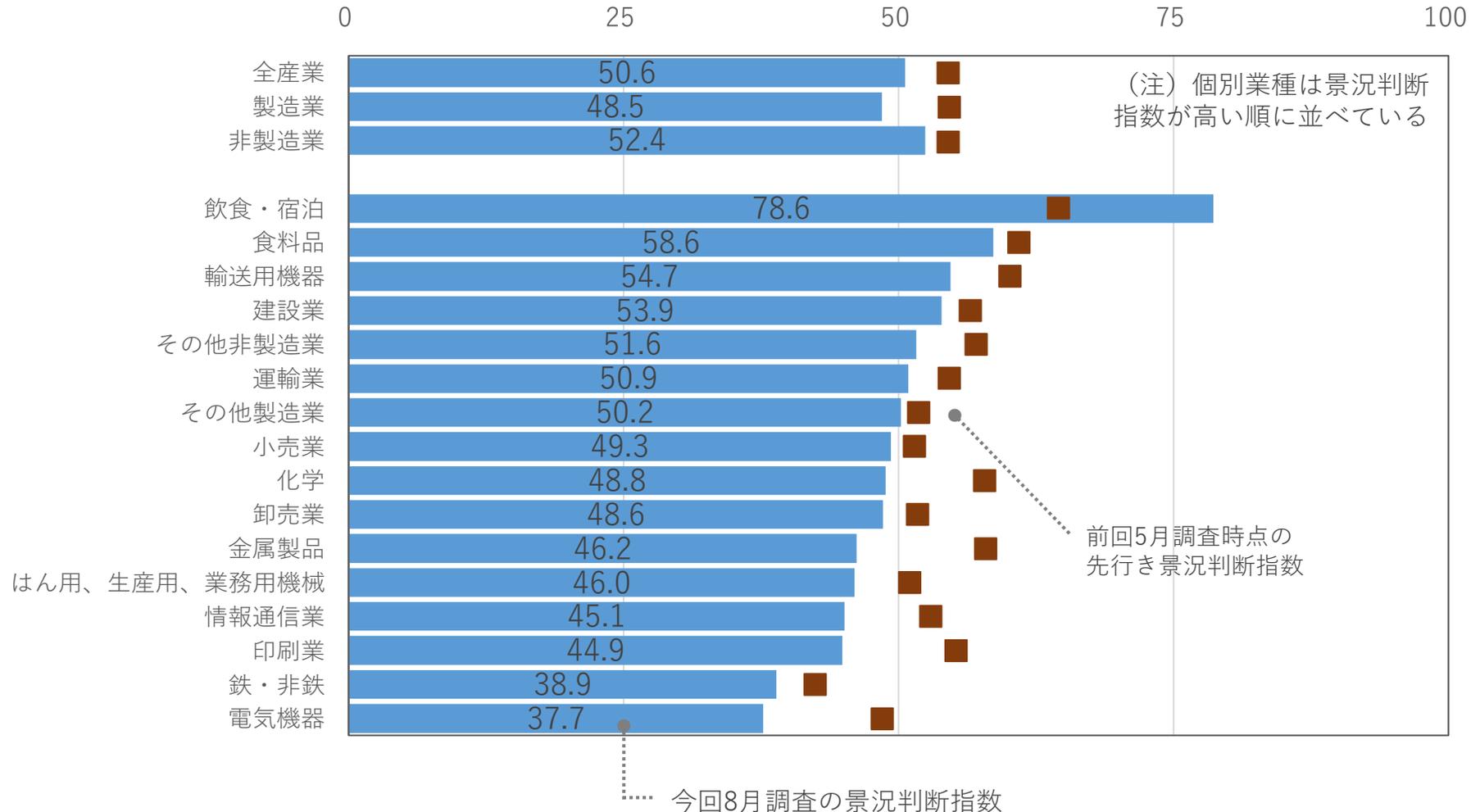
# 全体では「好転」超なるも、個々の業種別ではまだら模様

業種名	5月	8月 [5月時点の先行き]	(8月-5月)	先行き	回答数 (8月)
全産業	51.6	<b>50.6</b> [54.5]	-1.0	<b>52.8</b>	( 2,508 )
製造業	49.5	<b>48.5</b> [54.6]	-1.0	<b>53.9</b>	( 1,133 )
非製造業	53.4	<b>52.4</b> [54.5]	-1.0	<b>51.9</b>	( 1,375 )
食料品	62.6	<b>58.6</b> [60.9]	-4.0	<b>57.1</b>	( 140 )
化学	52.4	<b>48.8</b> [57.8]	-3.6	<b>54.4</b>	( 80 )
鉄・非鉄	37.3	<b>38.9</b> [42.4]	+1.6	<b>51.9</b>	( 81 )
印刷業	54.2	<b>44.9</b> [55.2]	-9.3	<b>50.0</b>	( 59 )
金属製品	48.8	<b>46.2</b> [57.9]	-2.6	<b>53.8</b>	( 186 )
はん用、生産用、業務用機械	47.7	<b>46.0</b> [51.0]	-1.7	<b>54.3</b>	( 161 )
電気機器	35.3	<b>37.7</b> [48.5]	+2.4	<b>43.2</b>	( 81 )
輸送用機器	53.2	<b>54.7</b> [60.1]	+1.5	<b>59.4</b>	( 138 )
その他製造業	48.0	<b>50.2</b> [51.8]	+2.2	<b>53.9</b>	( 207 )
建設業	55.1	<b>53.9</b> [56.5]	-1.2	<b>55.8</b>	( 77 )
卸売業	51.7	<b>48.6</b> [51.7]	-3.1	<b>48.4</b>	( 386 )
小売業	51.0	<b>49.3</b> [51.4]	-1.7	<b>48.8</b>	( 212 )
運輸業	49.6	<b>50.9</b> [54.6]	+1.3	<b>51.2</b>	( 390 )
飲食・宿泊	73.2	<b>78.6</b> [64.5]	+5.4	<b>66.1</b>	( 117 )
情報通信業	51.5	<b>45.1</b> [52.9]	-6.4	<b>48.8</b>	( 41 )
その他非製造業	54.2	<b>51.6</b> [57.0]	-2.6	<b>54.3</b>	( 152 )

(注) その他製造業は 紙・パルプ、繊維、窯業・土石、木材・木製品を含む。その他非製造業は 不動産・物品賃貸業、サービス業を含む。

## <2023年8月の景況感(前回5月調査時点の先行きとの比較)> 飲食・宿泊以外は前回調査時点の予想に未達

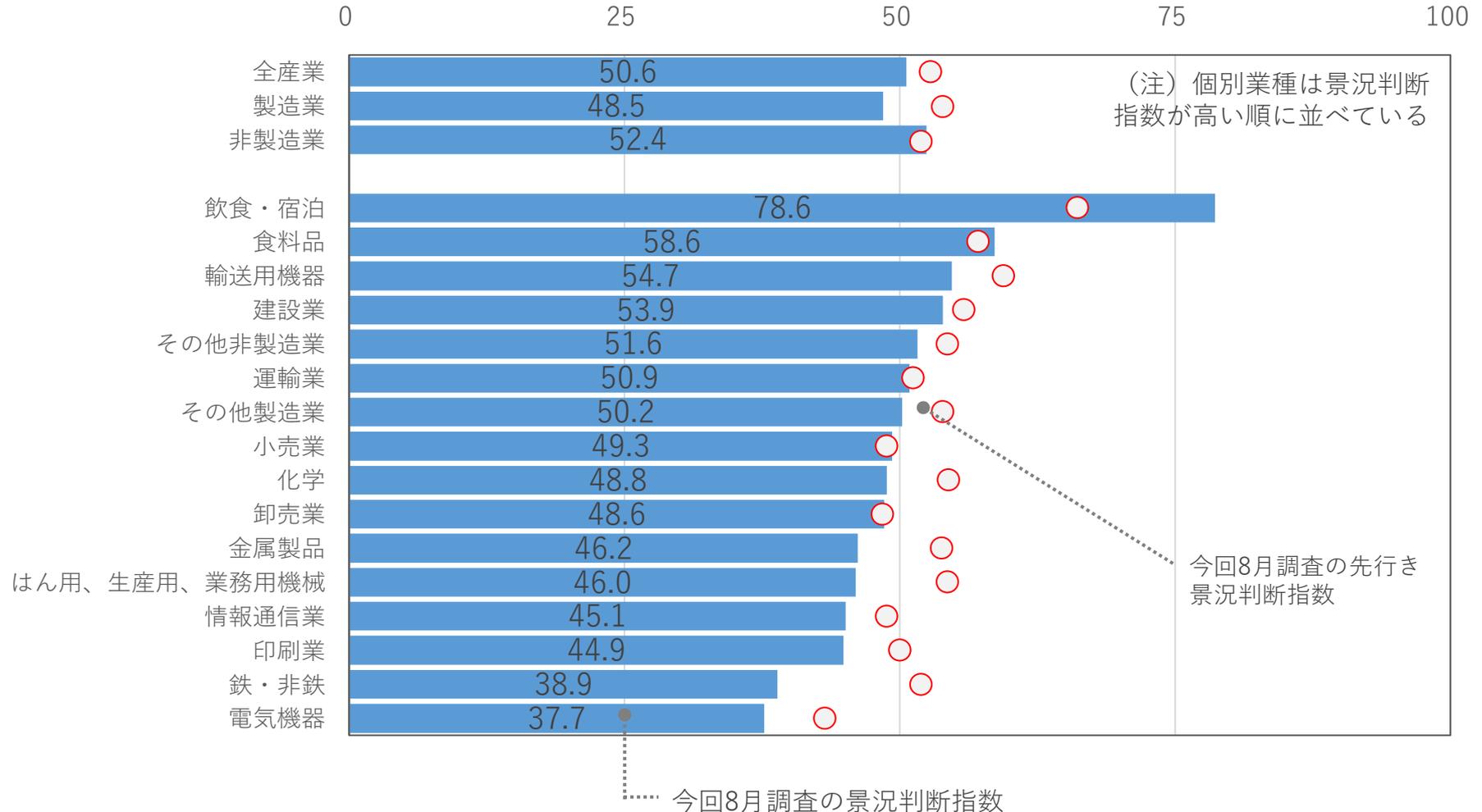
### ■ 前回5月調査時点の先行き景況判断指数との比較



<2023年8月の景況感（今回調査の先行きとの比較）>

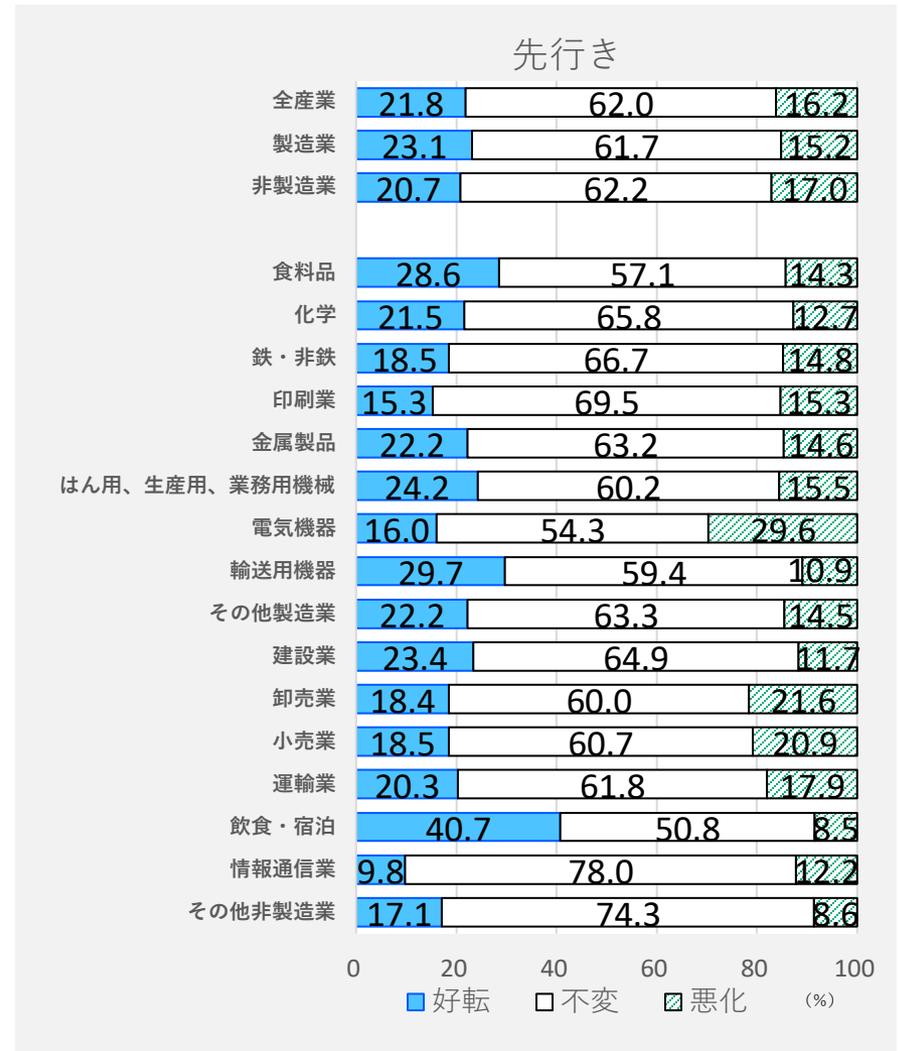
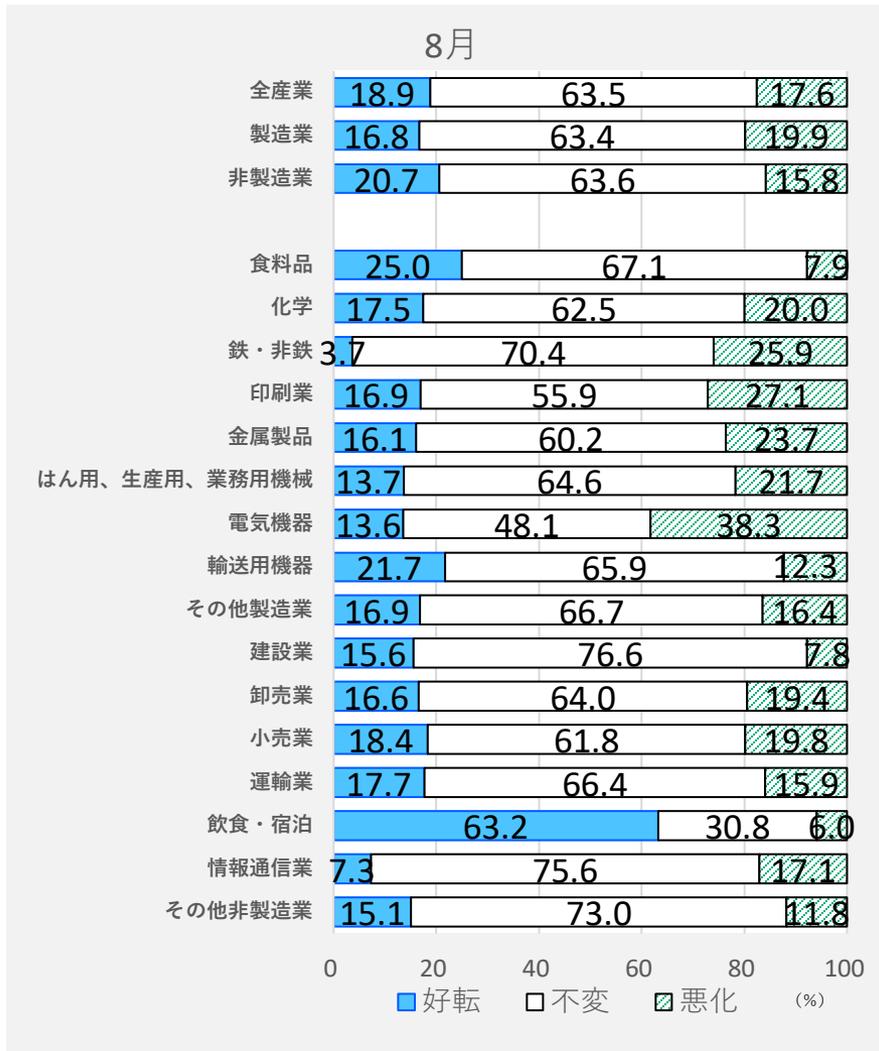
# 先行きの「好転」超幅は、製造業を中心に今回を上回る見通し

## ■今回8月調査の先行き景況判断指数との比較



<2023年8月の景況感（業種別の回答構成比）>

# 前回に続き、飲食・宿泊は過半数が今回の景況感を「好転」と回答



< 2023年8月の景況感(地域別の景況感) >

## 10地域中7地域が「好転」超、指数の前回差はまちまち

地域名	5月	8月 [5月時点の先行き]	(8月-5月)	先行き	回答数(8月)	構成比 (%)	
						製造業	非製造業
全国	51.6	<b>50.6</b> [54.5]	-1.0	<b>52.8</b>	( 2,508 )	45.2	54.8
北海道	59.4	<b>60.3</b> [60.4]	+0.9	<b>55.6</b>	( 63 )	25.4	74.6
東北	50.0	<b>49.7</b> [54.9]	-0.3	<b>50.8</b>	( 185 )	28.1	71.9
関東	51.9	<b>49.9</b> [54.7]	-2.0	<b>53.1</b>	( 754 )	45.8	54.2
甲信越	42.0	<b>47.2</b> [51.4]	+5.2	<b>51.6</b>	( 161 )	57.8	42.2
東海	51.4	<b>50.8</b> [55.8]	-0.6	<b>55.3</b>	( 263 )	59.8	40.2
北陸	50.5	<b>50.5</b> [53.5]	±0.0	<b>53.2</b>	( 108 )	51.9	48.1
近畿	51.9	<b>50.4</b> [53.2]	-1.5	<b>52.2</b>	( 412 )	49.5	50.5
中国	51.5	<b>52.0</b> [52.9]	+0.5	<b>52.3</b>	( 200 )	39.5	60.5
四国	49.4	<b>51.8</b> [55.6]	+2.4	<b>48.2</b>	( 82 )	40.2	59.8
九州・沖縄	56.9	<b>52.0</b> [56.0]	-4.9	<b>53.4</b>	( 280 )	34.9	65.1

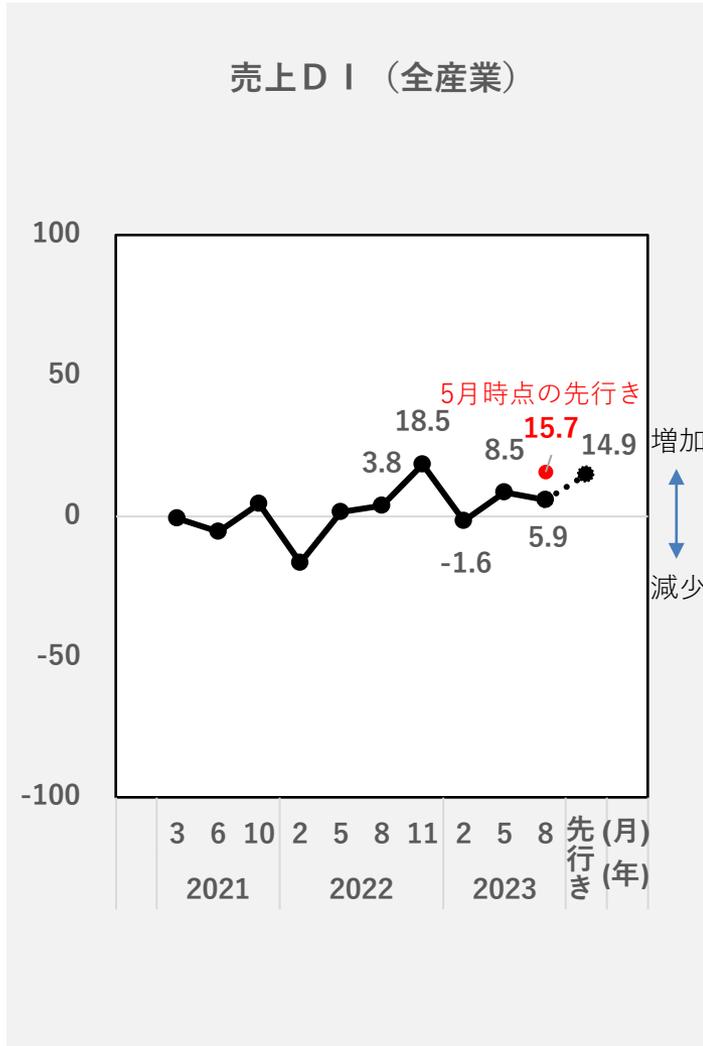
(注) 全国ベースで調査対象企業の抽出を行っているため、地域ごとの業種構成は考慮していない。  
そのため、各地域間の比較や、全国と各地域を比較する際は注意を要する。

## 2. 業況判断

～【売上】非製造業を中心に「増加」超が継続

<2023年8月の業況判断>

【売上】非製造業を中心に「増加」超が継続



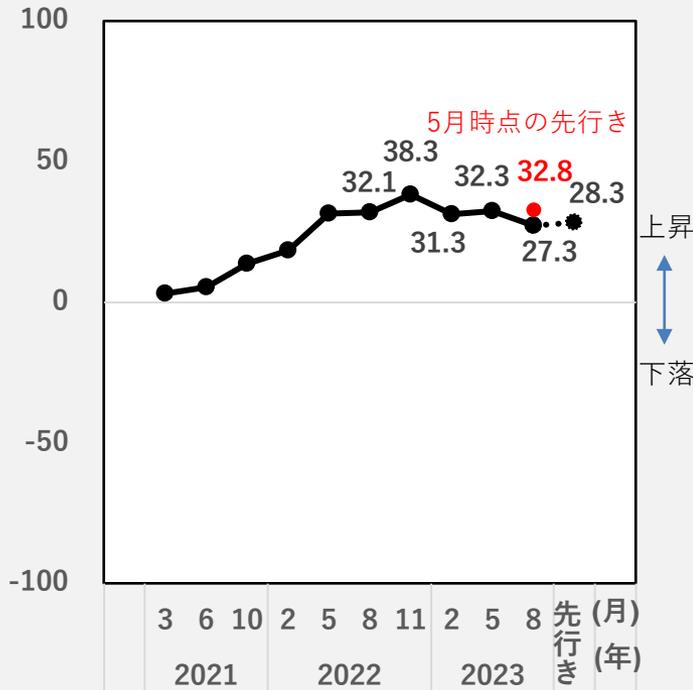
	23年5月	23年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	8.5	5.9 [15.7]	14.9
製造業	4.1	0.2 [15.8]	15.4
非製造業	12.1	10.6 [15.6]	14.5
食料品	42.0	35.3 [34.5]	28.1
化学	12.0	▲ 6.3 [19.3]	21.5
鉄・非鉄	▲ 20.0	▲ 20.7 [▲ 6.3]	7.3
印刷業	12.5	▲ 1.7 [25.0]	23.7
金属製品	▲ 4.1	1.6 [19.9]	12.5
はん用、生産用、業務用機械	▲ 3.9	▲ 12.5 [1.9]	8.1
電気機器	▲ 32.4	▲ 21.0 [▲ 5.9]	▲ 7.4
輸送用機器	10.5	5.1 [30.1]	21.7
その他製造業	5.5	1.5 [13.7]	18.4
建設業	7.4	13.2 [14.7]	13.0
卸売業	8.0	1.6 [10.6]	6.0
小売業	6.7	16.0 [11.1]	16.1
運輸業	8.0	5.9 [16.7]	17.5
飲食・宿泊	47.7	59.3 [33.3]	36.4
情報通信業	0.0	▲ 9.8 [2.9]	▲ 2.4
その他非製造業	17.7	3.9 [22.0]	14.5

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年8月の業況判断>

**【販売価格】 「上昇」 超幅は緩やかな縮小傾向**

販売価格DI (全産業)



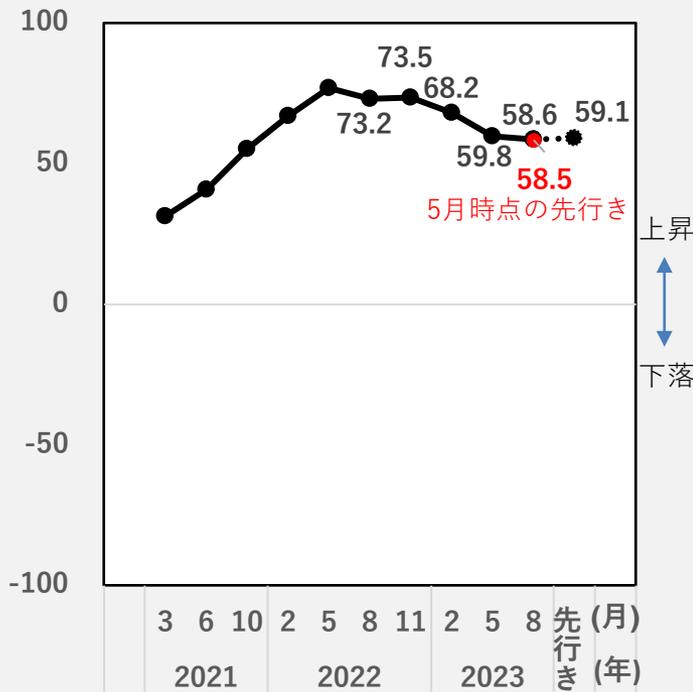
	23年5月	23年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	32.3	27.3 [32.8]	28.3
製造業	33.7	23.5 [31.8]	26.2
非製造業	31.2	30.4 [33.7]	30.1
食料品	48.7	36.2 [50.0]	47.1
化学	30.1	21.5 [20.5]	21.5
鉄・非鉄	10.8	9.8 [18.5]	8.6
印刷業	29.2	28.8 [31.3]	33.9
金属製品	30.8	22.0 [30.8]	18.9
はん用、生産用、業務用機械	32.0	19.5 [29.9]	27.2
電気機器	27.9	15.0 [16.2]	23.5
輸送用機器	30.6	22.2 [31.5]	24.3
その他製造業	42.4	28.2 [38.1]	26.6
建設業	13.6	18.7 [13.8]	18.7
卸売業	36.2	32.9 [34.5]	31.2
小売業	40.2	53.6 [44.4]	54.3
運輸業	21.2	14.9 [28.6]	20.6
飲食・宿泊	52.7	58.1 [45.5]	40.2
情報通信業	20.6	17.5 [17.6]	17.1
その他非製造業	22.7	18.7 [31.9]	19.3

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年8月の業況判断>

**【仕入価格】 「上昇」 超幅は高水準ながら、緩やかな縮小が続く**

仕入価格DI (全産業)



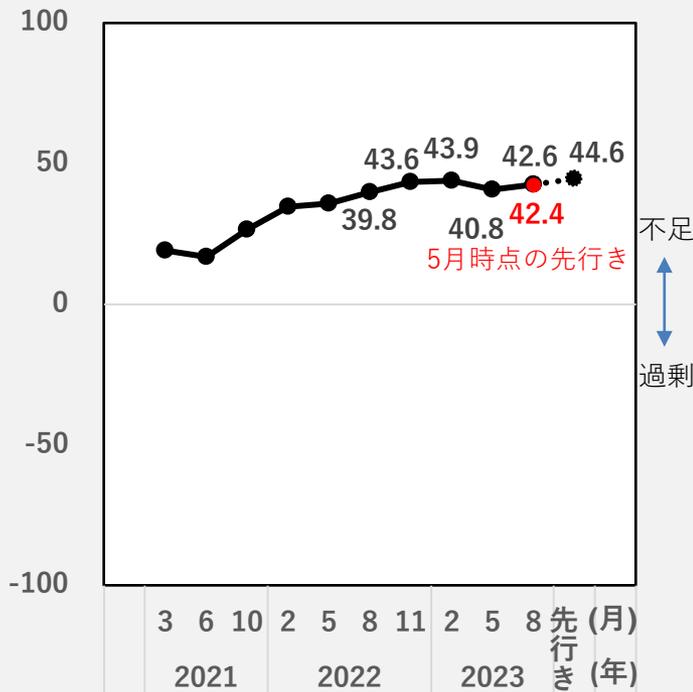
	23年5月	23年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	59.8	58.6 [58.5]	59.1
製造業	60.3	51.1 [57.9]	52.7
非製造業	59.3	64.7 [59.1]	64.5
食料品	73.9	64.5 [73.9]	67.9
化学	48.2	51.9 [43.4]	46.8
鉄・非鉄	34.8	19.5 [33.8]	17.1
印刷業	81.3	67.8 [81.3]	76.3
金属製品	55.0	44.6 [51.8]	47.6
はん用、生産用、業務用機械	71.2	58.1 [68.2]	58.8
電気機器	68.7	55.6 [55.2]	56.8
輸送用機器	61.3	52.2 [59.7]	45.7
その他製造業	53.3	47.6 [53.5]	55.3
建設業	69.1	68.8 [58.8]	62.3
卸売業	51.6	53.8 [46.7]	54.0
小売業	54.8	64.0 [59.6]	65.7
運輸業	59.1	75.4 [63.9]	76.6
飲食・宿泊	85.5	82.2 [80.0]	77.1
情報通信業	64.7	51.2 [60.6]	51.2
その他非製造業	59.3	54.4 [61.2]	53.0

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年8月の業況判断>

**【雇用状況】 製造業を中心に「不足」超幅は再拡大**

雇用状況DI (全産業)

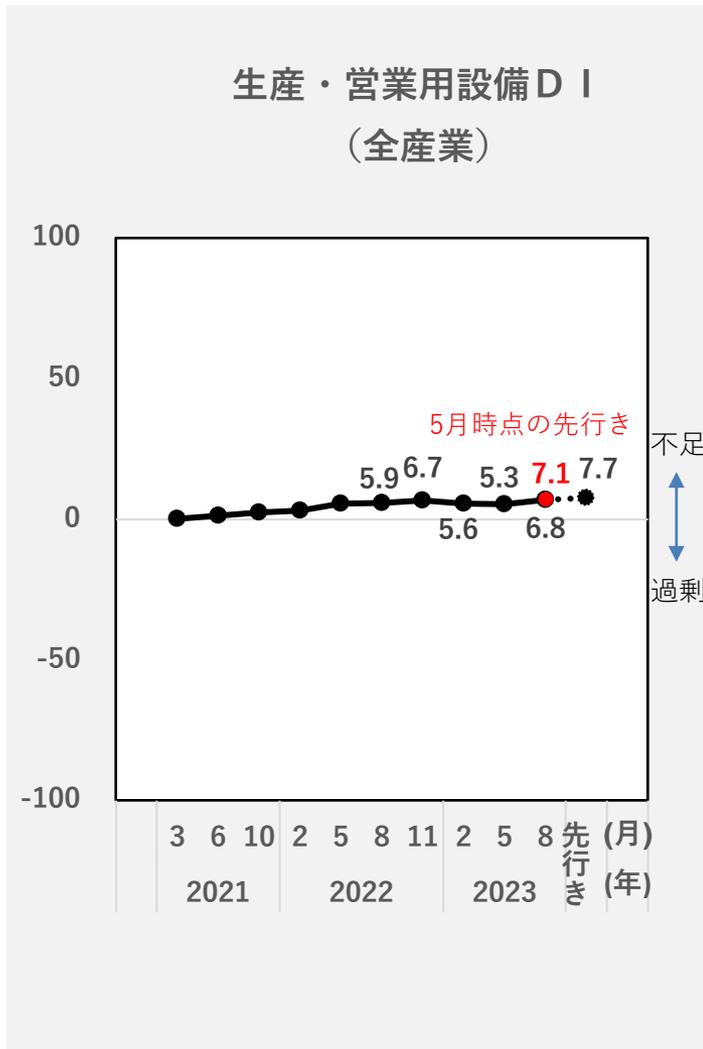


	23年5月	23年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	40.8	42.6 [42.4]	44.6
製造業	26.6	31.7 [29.4]	33.6
非製造業	52.6	51.5 [53.1]	53.7
食料品	42.0	41.1 [41.2]	44.3
化学	32.5	34.2 [33.7]	40.5
鉄・非鉄	24.2	32.9 [21.5]	34.6
印刷業	14.9	18.6 [21.3]	28.8
金属製品	24.0	30.6 [29.8]	33.7
はん用、生産用、業務用機械	26.8	26.9 [28.6]	28.8
電気機器	4.4	12.5 [5.9]	11.1
輸送用機器	26.6	38.4 [34.7]	36.2
その他製造業	28.3	35.4 [30.3]	35.4
建設業	60.3	61.0 [62.7]	62.3
卸売業	36.2	31.9 [35.0]	35.3
小売業	51.0	57.8 [49.5]	62.2
運輸業	63.7	60.6 [64.2]	59.9
飲食・宿泊	75.5	73.7 [78.9]	75.4
情報通信業	26.5	41.5 [36.4]	48.8
その他非製造業	54.3	50.0 [56.4]	52.6

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年8月の業況判断>

# 【生産・営業用設備】引き続き小幅の「不足」超



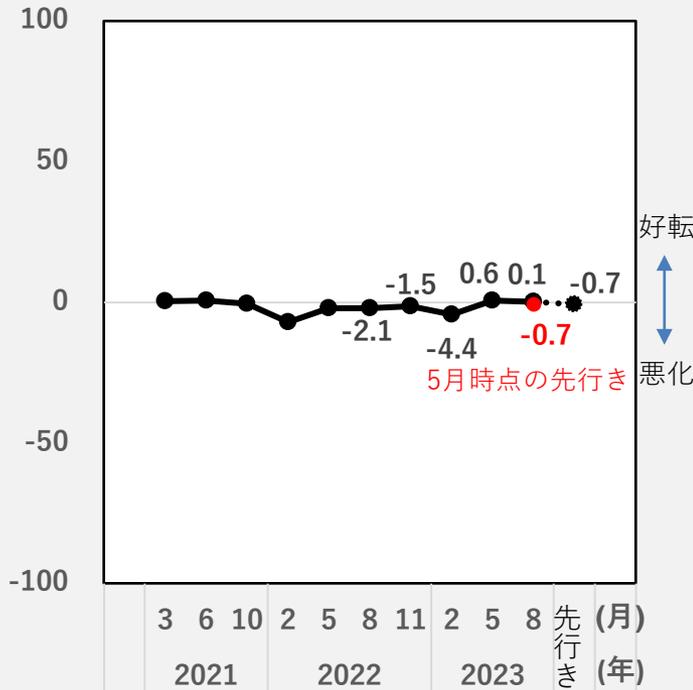
	23年5月	23年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	5.3	6.8 [7.1]	7.7
製造業	3.1	3.5 [5.6]	5.2
非製造業	7.2	9.6 [8.5]	9.8
食料品	14.3	8.6 [17.8]	11.4
化学	6.0	3.8 [8.4]	10.3
鉄・非鉄	▲ 3.0	6.1 [0.0]	6.3
印刷業	▲ 4.2	▲ 3.4 [2.1]	▲ 1.7
金属製品	1.2	2.2 [1.8]	4.9
はん用、生産用、業務用機械	5.2	3.1 [5.8]	5.7
電気機器	▲ 4.4	0.0 [2.9]	3.7
輸送用機器	▲ 4.8	▲ 2.2 [1.6]	▲ 0.7
その他製造業	6.6	7.4 [6.1]	4.9
建設業	▲ 1.5	▲ 2.6 [▲ 1.5]	▲ 2.6
卸売業	3.5	8.5 [5.8]	9.1
小売業	8.8	4.8 [9.3]	5.8
運輸業	11.2	17.0 [13.3]	17.8
飲食・宿泊	8.4	18.3 [4.7]	14.8
情報通信業	0.0	▲ 4.9 [9.1]	▲ 4.9
その他非製造業	9.3	4.0 [10.1]	3.3

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年8月の業況判断>

**【資金繰り】全産業では前回に続き小幅の「好転」超**

資金繰りDI (全産業)



	23年5月	23年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	0.6	0.1 [▲0.7]	▲ 0.7
製造業	▲ 2.6	▲ 2.2 [▲2.8]	▲ 2.9
非製造業	3.2	2.0 [1.0]	1.1
食料品	2.5	4.3 [7.6]	1.4
化学	▲ 6.0	▲ 6.3 [▲7.2]	▲ 8.9
鉄・非鉄	▲ 3.0	▲ 7.3 [▲6.2]	▲ 2.4
印刷業	▲ 12.5	▲ 6.8 [▲6.3]	▲ 3.4
金属製品	▲ 5.9	▲ 1.6 [▲2.4]	▲ 3.3
はん用、生産用、業務用機械	3.3	▲ 3.8 [▲2.6]	▲ 3.8
電気機器	▲ 11.8	▲ 7.4 [▲19.1]	▲ 8.6
輸送用機器	6.5	2.2 [4.1]	0.7
その他製造業	▲ 6.1	▲ 2.0 [▲4.6]	▲ 2.9
建設業	5.9	0.0 [5.9]	2.6
卸売業	4.3	1.0 [0.3]	▲ 0.8
小売業	▲ 0.5	3.3 [▲1.4]	3.3
運輸業	0.6	▲ 1.3 [▲0.6]	▲ 1.8
飲食・宿泊	13.6	20.5 [5.5]	11.1
情報通信業	2.9	▲ 4.9 [2.9]	▲ 2.4
その他非製造業	2.8	0.0 [3.5]	2.6

(DIの定義は資料末尾に記載)

## (参考) 業況判断DIの定義

<b>業況判断</b>	<p>各項目の「今月」および「先行き」について、下記3つの選択肢（1.~3.）の中から、調査対象企業自身の業況についての判断（業況感）に該当するものを選択する</p>
<b>DIの算出方法 (Diffusion Index の略)</b>	<p>①売上…「1.増加」「2.不変」「3.減少」          ②販売価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」          ③仕入価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」          ④雇用状況…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」          ⑤生産・営業用設備…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」          ⑥資金繰り…「1.好転」「2.不変」「3.悪化」</p> <p>業況判断DI = 「1.」 - 「3.」の企業割合（%）          DIの範囲▲100.0 ≦ 業況判断DI ≦ 100.0</p> <p>②販売価格、③仕入価格、⑥資金繰りは「今月」はおおむね1~3か月前と比べて、「先行き」は今月と比べた向こう3か月程度の見通しについて、それぞれ選択肢から選んで回答。</p> <p>④雇用状況、⑤生産・営業用設備は、調査対象企業が「適正」と考えている水準を基準として、「今月」と「先行き」の状況を、それぞれ選択肢から選んで回答。</p>

## <2023年8月の景況感・業況判断>

# 景況感・業況判断に関連する自由記載から

### 【鶏卵相場見通し】

7月から鶏卵生産量が増加して**著しい供給余剰**となり、相場は6月末の高値から2割ほど下がる。秋以降も余剰感は続き、軟調相場が予想される(食料品)

### 【諸コスト上昇の影響】

製品の大半は自動車部品。受注は回復しつつあるが、半導体不足の影響も残り、コロナ前までは戻らず。**この2年間は鋼材・エネルギー価格が著しく上昇し製造コストを急激に押し上げた**。価格転嫁は行っているがタイムラグがあり、転嫁しきるまで時間がかかる。足元の情勢を踏まえると、エネルギーコストは今後も高止まりを見込む(鉄・非鉄)

### 【業種別受注動向】

6月～7月初旬まで残っていた一部自動車メーカーの半導体不足が解消されたようで、**自動車関連の受注が安定して高水準になっている**。産業機械関連の受注も高水準。一方で建築・建材関係は大型案件がなく伸びていない。**自動車、産業機械関連は、内示を見る限り9月以降も高水準で推移しそう**(金属製品)

### 【価格転嫁の進捗状況】

仕入価格やエネルギー価格の上昇により**価格転嫁が追いつきつつある**印象。秋口には一旦単価引き上げが収益に寄与していく見込み(化学)

### 【中国の景気悪化による影響】

取引先の**中国向け輸出が不調**で、結果として弊社が納める製品の出荷も不調となっている。**この傾向は中国経済の先行き不透明感から当面継続する**と思われる。一方で、取引先の中でも中国からインドへと主要輸出先を変更できた企業への納品は増加している(金属製品)

### 【印刷業の構造的問題】

これまで「印刷」で対応されていた案件が、**デジタル**(例えばデジタルサイネージ等)に置き換えられることが少しずつ増えていると感じる(印刷業)

### 【中国の半導体需要】

中国向けの半導体製造装置の受注は長い間足踏み状態となっている。**回復は年末から年度末と聞くこと**から厳しい状況は当面継続すると思われる(電気機器)

※文意を損なわない範囲で一部記載を変更している(見出しは商工中金にて適宜作成)。

## <2023年8月の景況感・業況判断>

# 景況感・業況判断に関連する自由記載から

### 【自動車産業の動向】

自動車業界の半導体不足等の状況が改善しており、業績が回復している(輸送用機器)

### 【半導体製造装置向け一服、自動車向け繁忙】

半導体製造装置向けの原材料部門は、今期半ばから需要がひと段落してきたが、自動車用ガラスの加工部門は、半導体部品の供給が補充されたことによりここ数ヶ月はかなり忙しくなってきた(その他製造業)

### 【マンション建設ラッシュと職人不足】

分譲・賃貸マンションともに建築ラッシュで、わが社の施工能力を超える受注量となってしまう、職人の不足により対応しきれない状況が続いている(建設業)

### 【消費行動の変化】

コロナ感染症の5類移行に伴い、消費者の行動が家の中から外へと急速に向かっている。そのため今まで売上の高かった食料品及び家庭用品が物価の高騰もあり減速している。一方でコロナ禍でダメージの大きかった衣料品が売上を伸ばしてきており、今後もこの傾向は続くものと思われる(小売業)

### 【製造業の動きに伴う鉄スクラップの状況】

これまで好調だった家電製品の製造が落ち込み、自動車関連の製造も良し悪しにムラがある状況。製造が落ちる事でスクラップの発生が減少し、ひいては自社の売上減に繋がってしまう。この状況がいつまで続くのか、予想が立てづらい状況が続く(卸売業)

### 【中国経済の悪化に伴う需要のだぶつき】

当社の主力製品は輸入品と競合しているが、通常中国市場に流れているものが同国経済の悪化により日本市場に流入しており、円安にもかかわらず日本国内での売値が低下し当社製品の競争力が低下している(その他製造業)

### 【ガソリン価格の高騰】

今年度に入り、原油価格の落ち着きから政府の「激変緩和補助金」の順次減額がなされる中、再び原油価格が上昇し、また円安への大振れも加わりガソリンのマーケット価格が著しく上昇している。このままでは弊社の経営にも大きな影響が出る(小売業)

※文意を損なわない範囲で一部記載を変更している(見出しは商工中金にて適宜作成)。

## <2023年8月の景況感・業況判断>

# 景況感・業況判断に関連する自由記載から

### 【2024問題を踏まえた新たな需要】

2024年問題を控え、**中継地**としての関東方面からの**倉庫引合いが増加**している(運輸業)

### 【宿泊業の動向】

8月の**宿泊部門は過去最高売上を記録**し、客単価も過去最高。**飲食部門はコロナ前を超えられず**、仕入れ価格も上昇しているが、人材育成による生産性向上により少数精鋭で運営することができている。先行きの不安としては、飲食の売上がコロナ前の水準に戻らなかった場合、宴会場を客室としてリノベーションなどの業態変更を検討する必要がある(飲食・宿泊)

### 【今後の水産物需要見通し】

外需に依存して高値が継続していた品目は、**今後価格調整の可能性が高まる**と見ている。また、国内全体で冷凍・冷蔵倉庫の庫腹率が高いため、**国産・輸入問わず倉庫が不足**している。今後数か月は注意深く見ていく必要がある(その他非製造業)

### 【観光バス事業の近時動向】

バス事業につき景況感は観光業と連動する。5月のコロナ5類移行から人流が活発化し、個人を中心顧客とする都市観光事業はコロナ前比を超える乗客数の部門もあった。ただ、主力の貸切バス事業は季節による波が大きく、花見・GWの次期に比べ夏休みシーズンは減少傾向。**秋の旅行シーズンとなる9~11月は反転を見込む**(運輸業)

### 【出版業の動向】

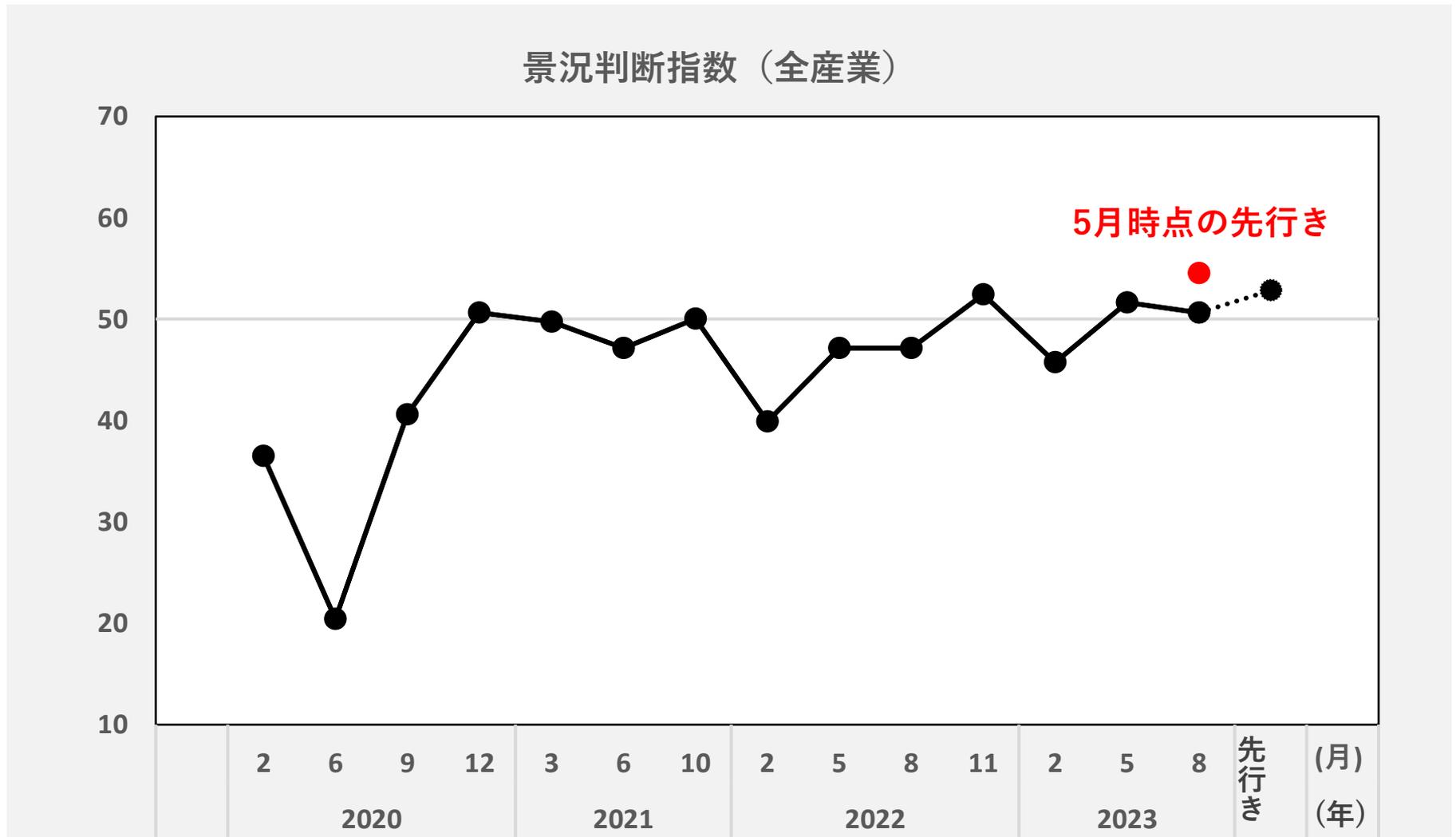
**販売チャネル(書店)の減少**から、緩やかな減収トレンドは変わらないと見ている(情報通信業)

### 【好調な宿泊業の波及効果】

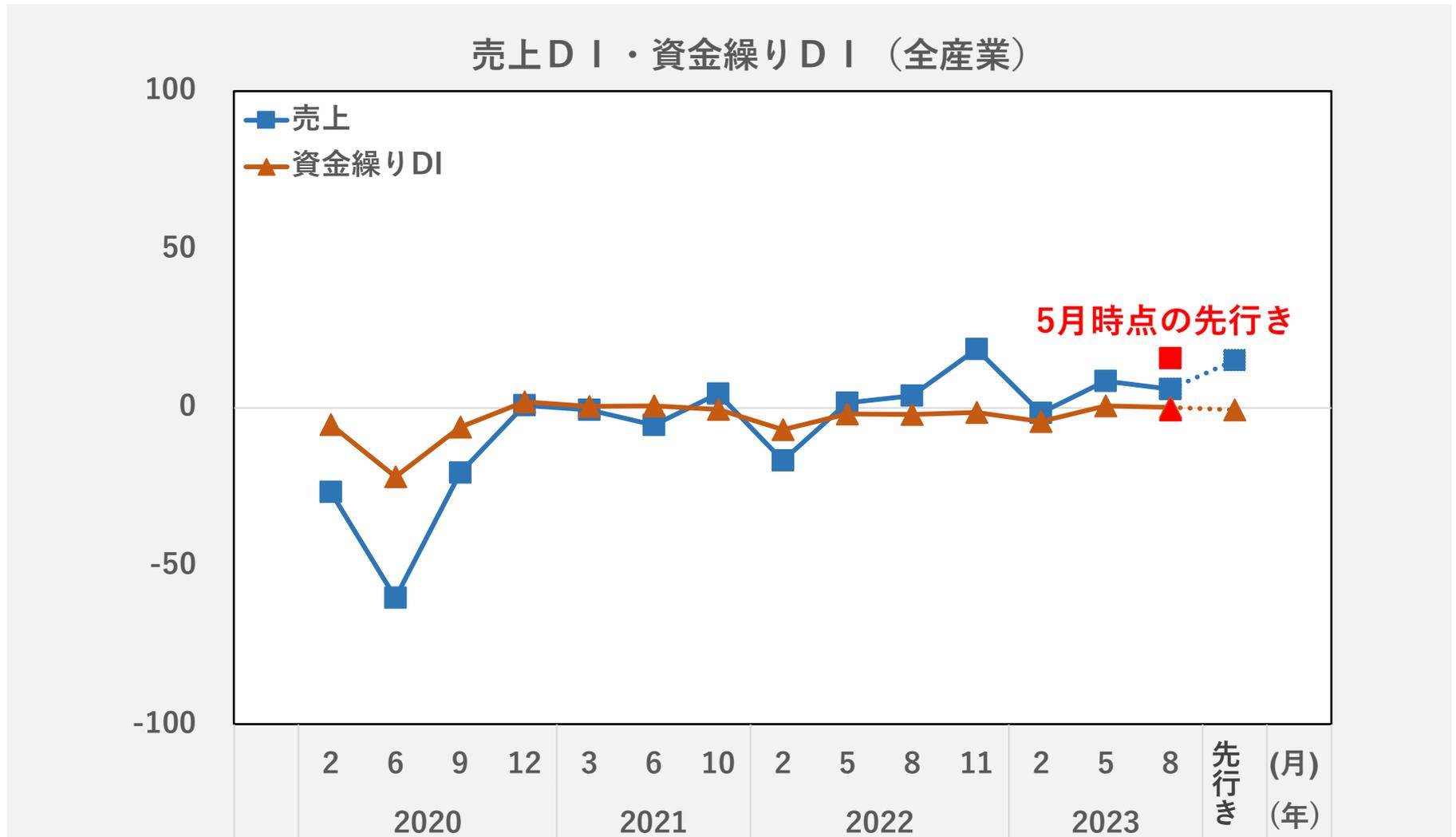
値上げ効果や得意先であるホテル・旅館等の稼働率が上がり売上は順調だが、**深刻な人手不足**により生産がなかなか追いつかない状況。業績は、人件費・諸経費等の増加を売上増で吸収しており、良い状況(その他非製造業)

※文意を損なわない範囲で一部記載を変更している(見出しは商工中金にて適宜作成)。

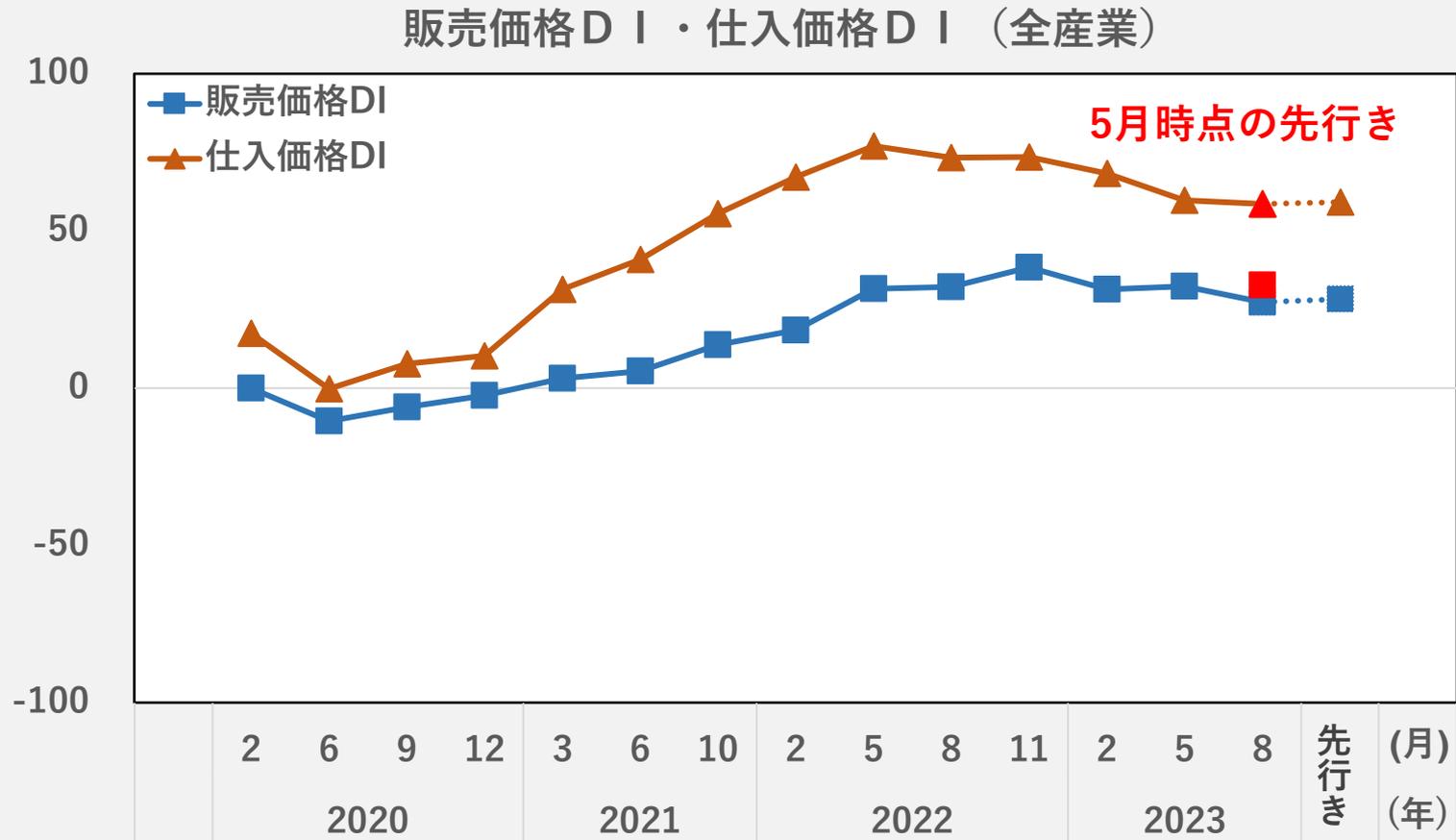
(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (景況判断指数)



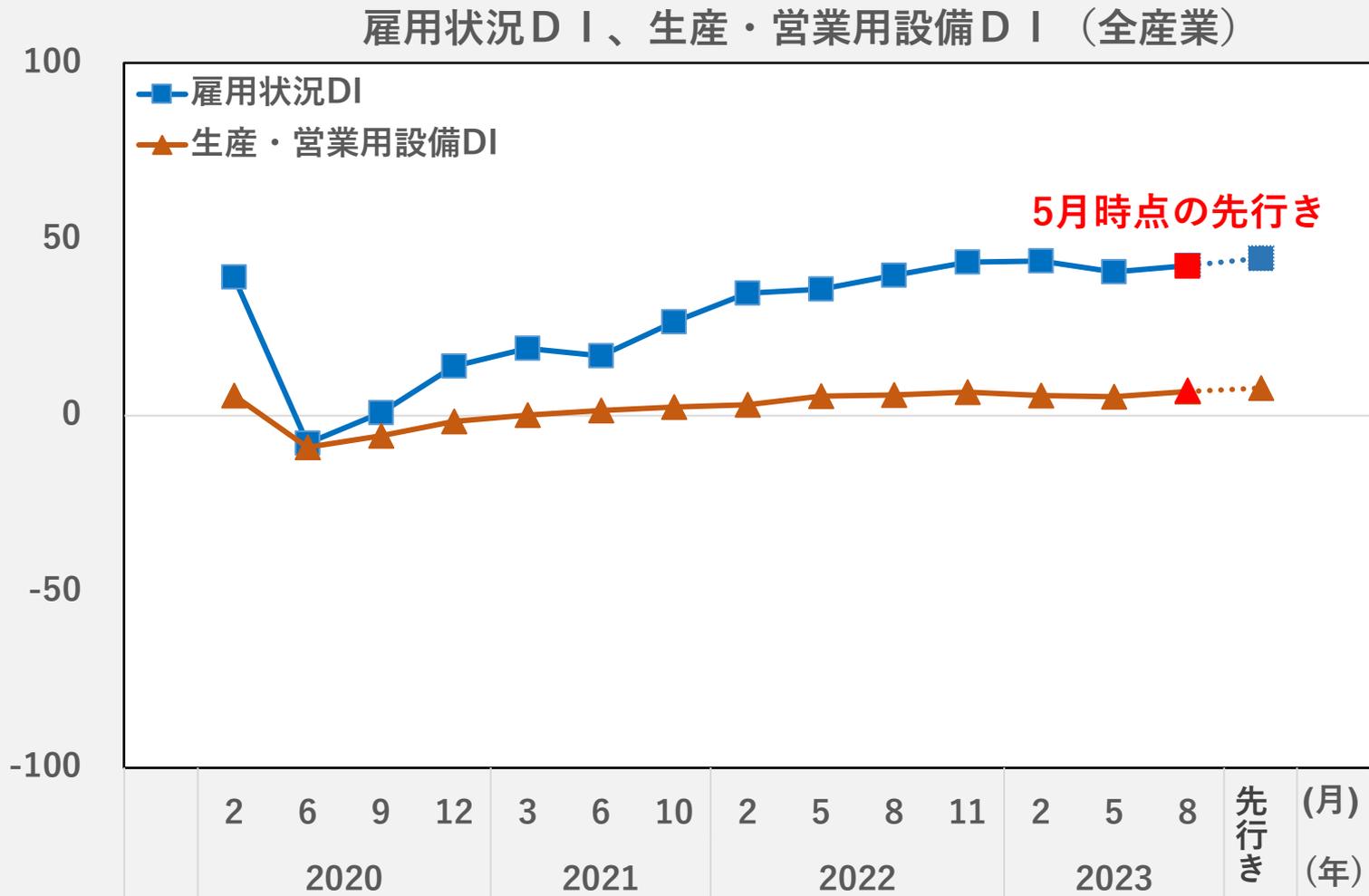
(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (売上、資金繰り)



(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (販売価格、仕入価格)



(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (雇用状況、生産・営業用設備)





人を思う。未来を思う。

商工中金